

「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】登別市立幌別中学校	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																
【活動の名称】 いじめ撲滅集会・ありがとうの木運動																	
【活用した資源】生徒会活動、いじめ撲滅宣言、ありがとうの木																	
【対象学年と活動の時期】全学年 4月、11月、2月																	
<p>(項目イー観点②絆づくり)</p> <p>【活動の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年縦割りによるコミュニケーション活動を実践する。 ・いじめ撲滅宣言、「ありがとうの木」の合唱を行う。 																	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを認めない雰囲気を醸成する。 ・自分も相手も心地よいコミュニケーションの図る方法を学び、体験させる。 																	
<p>【活動の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全校縦割りのグループを構成（全12グループ） ②コミュニケーション活動の実践（グループ内で上級生が1年生に対し分かりやすく説明） <ul style="list-style-type: none"> ・2年生による「すてきな聞き方」の説明→1年生のデモンストレーション体験 																	
	<p>2年生が1年生に教えることで、学習の振り返りを充実させることができます。</p>		<p>1年生のよさを発表することにより、これからの新生活に対する安心感や他者を認め合う気持ちを高めます。</p>														
<p>〈「すてきな聞き方」の説明〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生による「すてきな頼み方」「納得のいく断り方」の説明→1年生のデモンストレーション体験 ・2、3年生による自分のグループの1年生のよかったところの発表 <p>③生徒会書記局より、「いじめ撲滅宣言」「ありがとうの木」についての説明</p> <p>④パートリーダーが中心となり、「ありがとうの木」の合唱練習</p> <p>⑤全校生徒による「いじめ撲滅宣言」の確認</p> <p>⑥全校生徒による「ありがとうの木」の合唱</p>																	
<p>全校生徒と教職員が一体となり、「いじめ撲滅宣言」や「ありがとうの木」の合唱を行うことで、いじめを絶対に許さないという思いを全体で確認します。</p>		<p>〈いじめ撲滅宣言を全校生徒で斉唱します。〉</p>															
		<p>一、お互いに、言葉や暴力で人を傷つける行為はしません。</p> <p>一、お互いに、いじめを許す環境や雰囲気をつくり出しません。</p> <p>一、お互いに、認め支え合い、敬意を持って人に接します。</p>															
<p>〈ありがとうの木〉</p> <p>〈いじめ撲滅宣言〉</p>																	
<p>【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキル学習を実践し、望ましい言動への意識を高めることができた。 ・「いじめは絶対に許されない」ことを全校で確認することができた。 ・「ありがとうの木」の作成や合唱を通して、周囲への感謝の気持ちを表現することができた。 																	

- 「いじめ撲滅集会」を中核にし、道徳の時間や総合的な学習の時間、特別活動（生徒会活動）等の中で、「ありがとう運動」などの活動を意図的・計画的に、関連付けて実施することにより、内容の補充・深化を図ることができています。
- 各学年の役割を明確にすることにより、お互いを認め合い、相手を思いやる気持ちを育成することにつながっています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】日高町立門別中学校
【活動の名称】百人一首大会
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全学年 12月

（項目イー観点②絆づくり）

【活動の概要】
・文化委員会が中心となり、全校生徒が参加できる「百人一首大会」を行う。

【ねらい】
・文化委員会の生徒の企画運営力を高める。
・各学級では、練習を繰り返し、学級内の親睦を深める。
・大会当日は、異学年と対戦し交流を深める。
・企画運営をした生徒へのねぎらいや感謝の気持ちを育む。
・得意、苦手、関係なく認め合える関係をつくる。

【活動の流れ】〈教師の配慮事項〉
①文化委員会が計画を作成する。
②原案作成、学級審議を経て承認後、各学級での取組を行う。
③学年ごと、6人グループをつくり（不足は教員が入る）、放課後等を使い練習する。
④大会当日の司会進行は文化委員会が行う。
⑤異学年対抗とし、勝利したチーム数で、学級ごとの順位を決める。
⑥表彰は3位までだが、楽しむことを目的に参加する。
⑦大会の最後には感想の発表を行い、全員が楽しく取り組めた意識を共有する。



〈百人一首大会の様子〉

・他学年がたくさん練習してきたのがわかり、私たちも頑張ろうと思った。
・文化委員会のみなさん、楽しい行事をありがとう。お疲れ様でした。
・うまい人が優しく教えてくれてうれしかった。
・もっと練習してチームに貢献できるように頑張る。

〈生徒の感想〉

百人一首大会プログラム
文化委員会

- ねらい
 - ・日本文化のひとつである百人一首を通して、全校の交流を深める
 - ・他学年と交流することで、普段とは異なる様子を感じ合う
 - ・認め合いの中で、今後の生活に活かそうとする意欲を育てる
- 日時・場所
12月21日（月） 4校時 体育館
- 方法
 - ・学年ごとに4人で1チームをつくり、異学年どうして対戦する。
 - ・対戦は1回のみとする。
- ルール
 - ・自分たちの持ち札がなくなったら勝ち。
 - ・お手つきは有り。
 - ・チーム内で札を分け合うことはOK。

〈文化委員会作成プログラム〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】
・企画運営をしてくれた生徒へのねぎらいや感謝の気持ちをもたせることで、文化委員会の生徒が達成感や居場所を感じる事ができた。
・学級で取り組むことにより、学級内の親睦を深める事ができた。
・異学年と対抗することで、学年の枠を越えた親睦を深める事ができた。

- 異学年の集団活動を行うことにより、お互いを認め合う気持ちを育てるとともに、同学年の生徒同士の絆づくりにつながっています。
- 得意、不得意を認め合うことにより、今後の様々な活動において、認め合い支え合いながら活動していこうとする意欲を高める事ができています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】日高町立門別中学校
【活動の名称】 情報モラル教室
【活用した資源】携帯電話会社の講師
【対象学年と活動の時期】全学年 9月

（項目エー観点①居場所づくり）

【活動の概要】

- ・外部から講師を招き、ネットワークに関する知識を学ぶ。
- ・自分自身のネットワークの活用について振り返らせる。

【ねらい】

- ・ネットトラブルや、マナーを学ぶ機会とする。

【活動の流れ】〈教師の配慮事項〉

- ①新年度当初に係の教職員（研修担当）が、携帯会社に打診する。
- ②日程の調整などを行う。
- ③当日、全校生徒を対象に講話をしていただく。
- ④各学級にもどり、講話を振り返り感想等を記入させる。※講師の方は学級を巡回する。



〈講話の様子〉

当日の流れ

- ①講師の方の紹介
- ②講話
- ③生徒の感想の発表
- ④各教室での感想記入

*講師の方に各教室を巡回していただく

〈当日プログラム〉

- ・ネットトラブルが身近にあることが分かった。
- ・安易に情報を載せてはいけないということが分かった。
- ・世界中の人に見られていることを自覚しないといけない。
- ・機械だけはどんどん進歩しているのでそれに伴う知識をもたなければいけない。
- ・ネットトラブルが他人事ではないことが分かった。
- ・文字では違う意味でとらえられることがあるので、やはり一番は目を見た会話なのだと実感した。

〈生徒の感想〉



〈講話の様子〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・ネット利用に関して、安易にサイトを開いたり、送信したりすることがなくなった。
- ・本人や他人の情報を簡単にサイトに載せないようになった。

- 専門的な知識をもつ講師を活用したことにより、生徒にネットトラブルについて理解を深めさせることができています。
- 振り返りの時間を十分に確保したり、外部講師がその様子を見たりするなどの工夫を図ったことにより、生徒は、今後に向けて自分がすべきことを一層明確にすることにつながっています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】木古内町立木古内中学校
【活動の名称】 全校集会
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全学年 7月、2月

（項目エー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・生徒会執行部が「絆づくり」をテーマに企画したレクを行い、全校生徒の親交を深める。
- ・ネットモラルや人権などについて学び、他者への思いやり、コミュニケーションの重要性について考える。
- ・いじめ・ネットトラブル根絶メッセージを作成する。

【ねらい】

- ・生徒会執行部を中心に、生徒による企画や運営を通し、自主性を育む。
- ・異学年集団による活動により、人間関係やコミュニケーションスキルの基礎を養う。
- ・異学年集団で、コミュニケーションスキルを身に付ける活動を通して、上級生から普段起こり得る問題の具体的な解決策を学ぶ。

【活動の流れ】

①生徒会役員（執行部4名・専門委員長4名）＋第3学年委員長1名、計9名が中心となり、集会の内容を考え、準備を進める。



〈生徒会役員が内容を説明〉



〈縦割り班グループ活動〉



〈「携帯等の使用に関するアンケート」の結果と考察を発表〉

- ②全学年を9グループに編成し、生徒会役員等が、各グループのリーダーとなる。
- ③コミュニケーション活動を2種類（震源地・輪くぐり）、グループごとに実施する。
- ④ネットモラルについて、「携帯等の使用に関するアンケート」の結果と考察を発表する。
- ⑤いじめ・ネットトラブル根絶メッセージをグループごとに集まり、個人（1つずつ）→グループ（1つにまとめる）で作成する。
- ⑥各グループでのメッセージを生徒会執行部で集約し、生徒会だよりで紹介する。

～集会を終えて、生徒の感想～

- ・LINEなどの使い方を気を付けます。一歩間違えると、命にかかわる重大な事件に発展してしまうことを、今日の集会を通して、痛切に感じました。（3年生女子より）
- ・先輩たちとの活動によって、自分自身もっとしっかりしなくちゃいけないなと感じました。（2年生女子より）
- ・先輩たちと交流できて、よい意味で学年の壁が無くてよかったような気持ちになりました。（1年生男子より）



〈「絆」みんなで深めよう集会〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・様々な行事、活動に対して、仲間とともに協調性をもって取り組む生徒が増えた。
- ・異学年交流によって、礼儀や相手を思いやる心を育むことができた。
- ・アンケート結果を踏まえ、いじめ・ネットトラブル根絶メッセージを考えることで、自分自身のことと捉え、今後の行動につなげていくことができた。

- 異学年集団の交流活動を実施することにより、それぞれの立場の役割を自覚し、コミュニケーションを深めることにつながっています。
- 生徒主体の集会を運営することで、情報モラルや人権について考える必要性を一層高め、生徒の課題意識を高めることができています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】上ノ国町立上ノ国中学校
【活動の名称】 縦割りの体育祭活動
【活用した資源】体育祭実行委員会
【対象学年と活動の時期】全学年 4月中旬～5月中旬

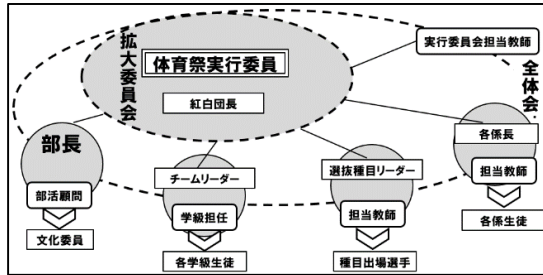
（項目ア—観点②絆づくり）

【活動の概要】
・実行委員会を中心とした生徒主体の活動を企画・運営し、生徒間の交流を深める。

【ねらい】
・実行委員会を中心とした生徒主体の体育祭活動を通して、自治的・自律的な態度を育む。
・異学年との交流を通して、互いに認め合い、協力して活動しようとする協働の心を育む。

【活動の流れ】

①実行委員会が中心となり、体育祭活動の提案を行う。



＜実行委員会 組織図＞



＜活動の様子＞

- ②A組を紅組、B組を白組として、縦割りの組織をつくる。
- ③各組の応援団長及び各種目や係のリーダーを選出し、リーダーが中心となって練習計画を立て取り組む。
※生徒主体の活動になるように、担当教師によるリーダーへの指導の在り方を工夫する。
- ④3年生が1年生をサポートする体制や2年生と3年生が全校を支え合える活動を重視し取り組む。
- ⑤体育祭後に全体と各係の解散式を行い、体育祭活動の反省会を行う。
- ⑥実行委員会が反省を集約し、全校にお便りとして発行する。
- ⑦学級ごとに体育祭活動の感想文を書き、学級通信等で思いを共有する。

☆こんな体育祭に！

～協力して、全校で1つのものを
創り上げる喜びを～
…周りの状況を見て、素早く判断し、
行動を…

- ＜自分たちから、見つける！
素早く判断！創り上げる＞
- ① 学年や立場に応じた役割を自分たちで判断し行動する
 - ② 自分たちの課題を考え、さらに高いものを目指す
 - ③ 練習や準備を効率よく行う
 - ④ お互いのよさを見つけ、励まし合おう

＜実行委員会からの提案＞

＜体育祭後の生徒の声（感想文より抜粋）＞

- ・体育祭活動を通して、リーダーというものの難しさと人のことを考え、まとめるということは、色々な人のためになるのだと学びました。これからの学校生活では、人のことを考え行動をしていき、みんなのために色々なことをできるようにになりたいです。（3年生）
- ・ぼくが3年生になった時、後輩にわかりやすく、わからないことを優しく教えてあげようと思いました。今の3年生を見習って、これからも行動などをたくさん学んでいきたいと思いました。（2年生）
- ・体育祭活動で学んだことは、全校生徒で一つのものを創り上げることの大変さです。でも、頑張った分、その後は達成感が感じられます。何よりも、みんなと協力することの大切さを学びました。（2年生）
- ・私はこの体育祭活動を通して、気づいたことがあります。それは、仲間と協力し合うすばらしさです。何事も一人ではできません。だから、仲間というものがあるのだと思いました。これからも私は仲間を大切にしたいです。（1年生）

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・異学年集団による交流を通して、下級生が先輩の行動に尊敬の念を抱いたり、全校生徒が学年を越えて協力し合うことの大切さを理解したりすることができた。
- ・仲間意識が高まり、協力し合って生活するようになった。
- ・生徒主体の活動を進めることで、自分たちで考えて行動する生徒が増えた。
- ・互いに注意し合いながら、きまりを守ろうとする姿が多く見られるようになった。

- 実行委員会を中心とした生徒主体の活動を進めることにより、自分たちで考え行動するなど、学校や学年、学級のなかで、自治的、自律的な活動への意識を培うことができています。
- 異学年集団による交流を含め、学年による役割の違いや思いやり、協力することの大切さを学ぶとともに、上級生になったときの抱負をもたせることにつながっています。

